Medicine for the last mile

すべてのアフリカの人々に健康と笑顔を

認定 NPO 法人
AfriMedico

年次報告書
2019
2019.04 - 2020.03

代表理事挨拶

ご支援を頂いている皆様へ

2019 年度も多大なご支援を頂き、誠に有難うございました。NPO 法人を 2015 年 3 月に設立して記念すべき 5 年目を迎える事ができました。2019 年度、AfriMedico は認定 NPO 法人となり、組織として信頼を得ることができました。立ち上げた当初、「置き薬は盗まれるだけ。難しいと思うよ。」といった声が多くありました。「アフリカに貢献したい」「難しいなら何とかしよう」といった想いだけだった私を、これを読んで頂いている多くの方々が支えていただき、乗り越えてきました。心より感謝申し上げます。

2019 年度の大きな進展は、置き薬事業を促進するために「研究」および「CUORE（クオーレ）」を開始したことです。実は研究開始時、団体内部で反対意見がありました。「AfriMedico は研究をするために存在するのか？」「事業が進めばそれが結果なので良いのではないか？」という声もあり、進めるべきか悩みました。しかし、議論を重ねた結果、命に関わる分野でエビデンスを抜きにしては前進は出来ず、置き薬の有用性を検証した上で事業を拡大すべきと考え、研究活動のスタートを決意しました。タンザニアの国立　ムヒンビリ大学との共同研究により、信頼性の高いデータを出していくことで、世界の多くの人に置き薬を知って頂く機会が増えると考えています。

また、「CUORE」は、CUstomer sheets Organized for Remote Environments の略で、薬の使用情報・代金回収などを記載した懸場帳（かけばちょう）のデジタル化プロジェクトに取り組んでいます。村の管理者は置き薬の設置世帯を回り薬の補充や代金回収をし「懸場帳」に記載してきました。その懸場帳をデジタル化することで更なる効率化を目指しています。この企画は IT チームのメンバーが自主的に考えて動いてくれました。こうした自発的な活動に組織としての成長を感じ、心から嬉しく思っています。

最後に、アフリカでは新型コロナウイルス感染者はまだ収束してません。そんな中、我々ができることを考え、医療教育チームメンバーが外部団体と組み、日本発ウイルス感染予防啓発ポスターのスワヒリ語訳を進めました。そんな小さな行動が世界をより良くしていくのだと思います。

このような活動を続けるには資金が必要です。私たちはマンスリーサポーター 100 人とすることを目標としておりますが、まだ半数にも届いておりません。今後とも、議論を重ね、未来を創っていくことを通して、皆様からのご支援、ご協力、叱咤激励に応えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2020 年 8 月　代表理事　町井恵理

AfriMedico

町井 恵理

私たちの Mission

私たちは “Medicine for the last mile” をスローガンに、

医療を通じて
アフリカと日本をつなぎ
健康と笑顔を届ける

ことをミッションとしています。

私たちの活動

私たちはアフリカと日本で以下の活動を行っています。

1 **日本発祥の置き薬事業の普及により住民のセルフメディケーションの促進**

2 **住民への医療知識の教育**

3 **医療環境調査による適切な現状把握**

4 **日本イベント・セミナーでのアフリカ課題の啓発活動**

置き薬で救える命をとりこぼさないことを目指し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）ーすべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることーに貢献していきます。

私たちの新型コロナウイルス感染症対策

AfriMedico ではアフリカの農村へ置き薬を置くだけでなく、薬の正しい使い方や病気の予防方法などの医療教育を行っています。

新型コロナウィルスが世界中に感染拡大していったおり、少しでも感染防止につながるように、日本発の感染予防ポスター （感染予防のために、できること）多言語版 （https://note.com/ancov/n/n9e4d12fc08ba）を現地メンバーにスワヒリ語訳をしてもらいました。

予防の基本である手洗いだけでなく、よく食べよく寝ること、運動すること、など、感染症対策の専門家が監修した８つの注意事項がかわいいイラストでわかりやすく描かれており、こちらを村の目立つところに張り出して、村の人々への注意を促しています。

2019 年度 活動総括

1 置き薬事業：研究活動開始とICT の導入

- 2019 年度は設置軒数は約 200 世帯と昨年から増えていませんが、質向上に注力し、2 つのプロジェクト、研究活動と ICT の導入を開始しました。
- 顧客インタビュー、置き薬ボックスへのロゴステッカー張りなど置き薬オペレーションの改善を重ねていきました。
- タンザニアの医学生・薬学生合計 13 名が新たに AfriMedico の活動に加わってくれました。

詳細は5 −7 ページへ ▶

2 TICAD7 への参加と現地オペレーションリーダー来日

- 2019 年 8 月末、TICAD7（第七回アフリカ開発会議）が横浜で開催され、AfriMedico はブースでのパネル展示に加え、公式サイドイベントとしての団体の説明会を行いました。
- TICAD7 の機会に合わせ、タンザニアのオペレーションリーダーである Gosby が初めて来日しました。TICAD7 のブースやイベントで、タンザニアでの活動の様子を紹介することはもとより、TICAD7 の前後には、富山県の置き薬メーカーを訪問したり、プロボノメンバーや支援者との交流を図るなど、日本に住む私たちに、タンザニアにおける AfriMedico の具体的な活動を強く印象づけてくれました。

詳細は8 −9 ページへ ▶

3 日本国内の活動

- 代表理事町井を中心に、イベント等を含む登壇回数は一年間で 21 回となり、3200 名を超える皆様に AfriMedico の活動を直接お伝えすることができました。また各種メディアにも取り上げていただき広く AfriMedico の活動と現地の状況を知っていいただくことができました。
- AfriMedico の日本側のスタッフは理事・プロボノあわせて 43 名となりました。2018 年度とりくんだ NPO 法人二枚目の名刺様との「ファンをつくろうプロジェクト」メンバーから 2 名プロボノメンバーに加わってくれ、プロジェクト内で見直しをしてくれた広報・資金調達分野にて活躍してくれています。

詳細は10 ページへ ▶

タンザニア現地の活動

顧客の声のインタビュー

置き薬や医療教育などの村の人へのサービスをさらによくしていくために AfriMedico では定期的に顧客にアンケートをとっていきます。置き薬の良い点として「手元にお金がないときにとても助かる」「置き薬マネージャーに薬のことを相談できる」などのフィードバックをいただきました。
同時に服用方法が理解できているか、また疾病への知識・対応の定点観測をはかり、村人の医療知識向上につなげていくために置き薬と教育の内容を改善していきます。

ロゴステッカー

2019 年度は新たな試みとして AfriMedico ロゴステッカーを作成し、各家庭の置き薬箱へ貼っていきました。なぜ、今さらロゴステッカーなのか？　実は、このステッカーは AfriMedico で活動するタンザニア薬学生が、食べ物と薬の箱を区別するために必要とと発案してくれたものです。小さな気づきですが、自分で村を回ったからこそ気づいた工夫ですし、それを積極的に日本側へ提案してくれることもとても嬉しいことでした。

新メンバー加入

2019 年度は 2018 年度に引き続き、タンザニアで新たなメンバー 13 名加わり 20 名以上の組織となりました。しかも、従来の中心メンバーであった薬学生に加え、医学生が大幅に増えています。彼らは置き薬によるセルフメディケーションという考え方に共感してくれるだけでなく、効果を最大限にするために、さまざまな健康教育を企画・実施してくれるなど、とても積極的かつアイデアにあふれた学生達です。今後の活躍にご期待ください！

ムヒンビリ大学との共同研究開始

AfriMedico では、2019 年 12 月、タンザニアの国立大学で唯一薬学部があるムヒンビリ大学（ダルエスサラーム）と置き薬の成果を検証する共同研究の締結を致しました。エビデンスを元に置き薬事業を客観的データに基づいた形で拡大していく予定です。

共同研究を行うムヒンビリ大学の薬学部
ムワンベテ教授

研究の開始にあたって、従来の置き薬事業とは別に新たな村を 2 つ選定中です。村の選定として同等な経済レベルと医療アクセス環境を持ち、今後 1 つの村に置き薬配置と医療教育、もう 1 つの村には置き薬を配置せず医療教育のみを行い、その結果を比較し置き薬が住民にどのような影響や行動変容を与えるのか、聞き取り調査を中心に検証を行っていきます。

2019 年末には、研究目的へ理解を得るために候補の村を直接訪問し、村長や村のヘルスケアワーカーなどへプロジェクトの説明を行いました。今後、村の基本的な環境調査（人口、職業、医療環境、教育環境、など）を住民 240 名を目標に進めて参ります。

今後数年をかけて、置き薬が住民にどのような影響や行動変容を与えるのか、聞き取り調査を中心に検証を行っていきます。支援くださるみなさまへも随時、様子をお伝えしたいと考えておりますので、ぜひご期待ください。

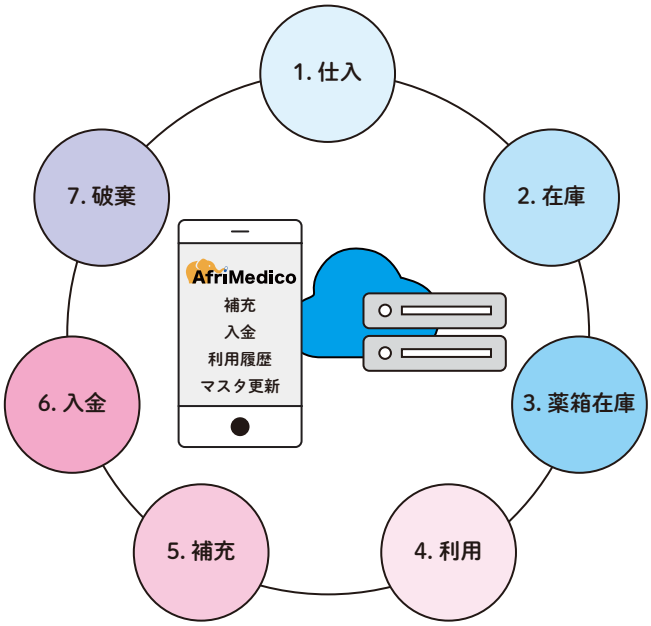
新しい村の村長、リーダーにプロジェクト説明

ICT 活用で現地オペレーションの改善

江戸時代、置き薬の販売員たちは、懸場帳（かけばちょう）と呼ばれるお客様の利用履歴や家族構成を記録した台帳を使って、お客様が必要とする薬を提供していました。

AfriMedico の置き薬マネージャーたちも、カスタマーシートを使ってお客様の情報をしっかり管理してくれていますが、タンザニアと日本では時差もあります。置き薬の利用者が増えるにつれ、紙ベースでのオペレーションでは記入ミスなどもあり、日本でリアルタイムに在庫数や利用状況を確認するのが難しくなってきました。

そこで AfriMedico では、独自開発した携帯端末アプリを使って、タンザニアの置き薬マネージャーたちが利用者宅を訪問したときにミスなく簡単に操作出来、そのデータをリアルタイムにクラウド上のデータベースに連携するシステムの開発を始めています。



このプロジェクトに、私たちはイタリア語で「心」を意味する CUORE（CUstomer sheets Organized for Remote Environments）クオーレと名付けました。

まずは現地オペレーションの改善をすすめ、今後、デジタル化された懸場帳データを使って、利用者に合わせたサービスの提供につなげていきたいと考えています。

村の電波状況をアルミホイルで強化してチェックする様子

昨年度は、AI（画像認識）を使った在庫管理システム AMORE の実証実験に取り組みました。結果、通信回線インフラの整備が不十分なタンザニア農村部での利用には、色々課題があることも分かってきました。

AMORE の画像認識機能は、今後、CUORE の携帯アプリの入力情報の検証に活用していく予定です。

TICAD7 への参加・現地オペレーションリーダーの初来日

[Gosby 日本初上陸]

Gosby は、AfriMedico がタンザニアで活動を始めた当初からオペレーションリーダーを務めてくれています。彼は、タンザニアメンバーのリクルートや村のオペレーション支援など、献身的に活動し続けてくれました。置き薬の設置世帯数が順調に増加しているのも、私たちが現地の様子や課題を理解できるのも、Gosby の貢献があってのことです。AfriMedico では、2018 年度に置き薬設置軒数が 200 を超えたことを記念し、TICAD7 の機会に Gosby を日本に招待しました。

置き薬企業の販売員様とお客様と

来日中は、Gosby に多くの体験をしてもらいました。タンザニアでの活動を円滑に進めるためには、置き薬の原点を知ることが大切です。このため私たちは、Gosby とともに置き薬を扱っている富山県の置き薬企業様を訪問し、置き薬の在庫管理や保存設備を見学しました。また、置き薬設置世帯への訪問にも同行してもらいました。

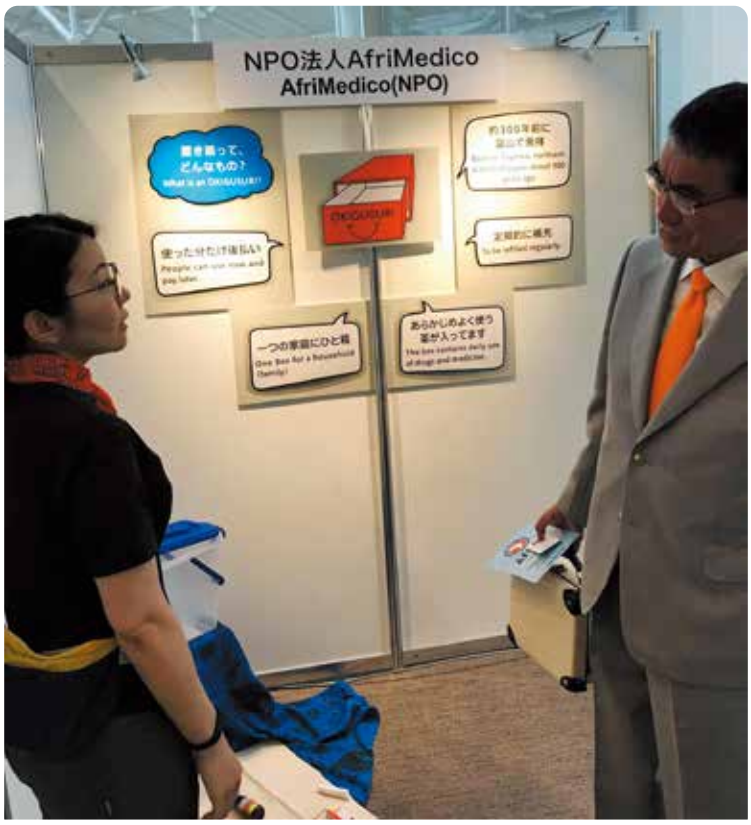
[TICAD7 への参加]

公開で開催される TICAD7 のサイドイベントは、アフリカでビジネスや協力活動を行う方々に AfriMedico の活動内容を知ってもらう絶好の機会です。このため、代表理事町井の講演に引き続き、町井と Gosby の対談を開催し、タンザニアでの活動の具体的内容や置き薬が普及することへの期待を Gosby から直接語ってもらいました。「村は道が悪かったり、通信環境が悪かったりしてオペレーションは大変だけど、置き薬を喜んでくれる人たちのために頑張りたい。」Gosby の言葉は、日本で活動する私たちも勇気づけてくれました。

TICAD7 への参加・現地オペレーションリーダーの初来日

[多くの方に立ち寄ってもらった展示ブース]

Gosby は、AfriMedico がタンザニアで　TICAD 7 の会場内には、民間団体や国際機関が活動を紹介するための展示エリアが設けられました。AfriMedico では、会場を訪れた人々に活動を知ってもらうために、AfriMedico のこと、タンザニアでの活動のことを紹介する展示ブースを出展しました。



8 月 27 日から 30 日までの TICAD 7 開催期間を通し、広報チームを中心とするプロボノメンバーが交代でブースに立ち、興味をもって下さった方々にパネルを紹介しながら活動を説明しました。また、時間の許す限り Gosby もブースに立ち、現地の様子を交えつつ、ブースを訪れた方々に現地での活動を具体的に紹介しました。

27 日には、会議出席に先立って展示ブースを見学していた河野外務大臣（当時）が AfriMedico ブースに立ち寄って下さいました。「薬は日本から持っていっているのか（※）」「現地での管理はどうしているのか」などの質問を交えつつ、時間を掛けて丁寧に見学し私たちを激励してくれました。（※現在薬は現地の都市で仕入れて村まで運んでいます。ですがタンザニア進出を狙う日本の製薬企業様のパートナーも募集中です）

AfriMedico のブースの場所は、TICAD7 の会議会場から一番遠いアネックス棟の一番奥と、恵まれた場所とはいえませんでしたが、4 日間で延べ 300 人以上の方々がブースに足を止めて下さいました。ブースに立ち寄って頂いた皆様に、心から感謝します。

TICAD への参加、それに合わせての Gosby の訪日は、多くの方々に直接 AfriMedico の活動を紹介する機会となりました。また、AfriMedico の日本チームとタンザニアチームの距離を縮め、課題を共有する貴重な機会となりました。AfriMedico ではこれからも、多くの方々に活動を紹介できる場に積極的に参加し、活動の輪を広げていくとともに、日本チームとタンザニアチームが一丸となって、「すべてのアフリカの人々へ健康と笑顔を」実現するために一歩一歩目指していきたいと考えています。

日本国内の広報活動

AfriMedicoはタンザニア現地の状況と私たちの活動を多くの人に知ってもらうため
国内で講演登壇や各種媒体を通じた広報活動をおこなっています。

町井がグロービスアルムナイアワード「創造」部門を受賞

町井が卒業したグロービス経営大学院は毎年４名の卒業生を、その活躍内容が金銭面だけではなく社会価値の向上に資するものであるか、またそのリーダーが高い人間的魅力を備えているかといった点を重視して選出し表彰しています。

2019 年には光栄にも町井がベンチャー起業や新規事業の立ち上げなどの「創造」部門で表彰をいただきました。

“ 自分の見たもの、経験したこと学んだことに責任を持つこと。ここにいる一人一人が何か行動を起こせば世界未来は変わっていく ”

そういった思いを受賞スピーチとして伝えさせていただきました。

ワンワールドフェスティバル出展

2020 年 2 月 2 日～ 3 日、大阪で開催された国際協力のお祭り「ワンワールド・フェスティバル」にブース初出展しました。2 日間で約 90 名の方がブースにお越し頂きました。

ブースでは、私たち AfriMedico の活動をパネル展示し、タンザニアの写真や地図を使って紹介しました。関西では初めてのブース出展だったので当日まで不安もあったのですが、始まってみるとブースに来てくださる方の多くが AfriMedico の活動に興味をもって熱心に耳を傾けてくださったので、すぐに不安も消え私たちも楽しんで出展させていただきました。

なぜアフリカ？なぜ置き薬？資金回収うまくいってる？など様々なご質問をいただき、活発な意見交換が行われ、頑張ってな！と温かい応援のお言葉をかけてくださったり、メンバー一同今後の活動の励みになりました。

（関西在住プロボノ：武田）

ご支援いただいた皆様

支えてくださった企業・団体の皆様

2019年度も寄付や助成金また技術提供などの様々な形でご支援をいただきました。その期待に応えられるよう、課題をひとつずつ克服しながら成果につなげていきます。改めまして皆様のご厚意に感謝申し上げます。

- 株式会社１万年堂出版
- 株式会社廣貫堂
- サムライカットジャパン株式会社
- 株式会社　参謀’s
- 株式会社セールスフォース・ドットコム
- 大鵬薬品株式会社
- 株式会社中京医薬品
- 一般社団法人　日本国際協力システム
- 日本マイクロソフト株式会社
- ノーエチ薬品株式会社
- 株式会社メンタルポジション

寄付者の皆様

マンスリーサポーター	49名
寄付者合計（年3000円以上）	75名

AfriMedico は 2019 年 11 月 8 日付で東京都から認定を受けることができました。この度認定 NPO 法人となったことで、支援者様は寄付金控除（個人）や損金算入限度額の枠の拡大（法人）、相続財産の非課税といった税制上の優遇措置が受けられるようになりました。

引き続き寄付を通じて事業を支えてくださる企業・団体・個人の皆様とともに、認定 NPO としての責任を果たすべく適切な事業運営、情報公開を行い、社会的インパクトの創出に邁進してまいります。

認定 NPO 法人の資格は 3000 円以上の寄付者が年間 100 人以上（5 年間平均）であることで 5 年後の更新が可能となるため、1 人でも多くの方々がご支援の輪に加わっていただけますようお願いいたします。

団体活動

団体概要

団体名	認定 NPO 法人 AfriMedico
設立	2015 年 3 月 31 日

代表理事	町井 恵理
理事	青木 基浩
理事	山口 牧子
理事	竹村 のり子
監事	蒲地 正英

組織図

日本	
海外戦略	経理 / 財務
医療教育	人事
申請	法務
研究	IT
企業連携・資金調達	広報

タンザニア	
Operation Development	Research
Health Education	Promotion
Customer Success	Treasurer
Procurement	

AfriMedicoメンバー

AfriMedico では、すべてのメンバーが本業を別に持ちながらプロボノ（ボランティア）として活動をする「パラレルワーク」を実践しています。

日本では、2019 年度に 8 名が新たに加わり、薬剤師、MBA 取得者、青年海外協力隊出身者などをはじめ、システムエンジニアやデザイナーを含む専門スキルや経験、業界も様々な 38 名のメンバーが活動しています。

タンザニアでも、メンバー増強により現地の置き薬事業を推進しています。また、オペレーション改善、医療教育用資材の作成、研究活動、広報活動など、幅広い分野で日本のメンバーと連携して活動を進めています。

COVID-19 の影響により、日本はリモートでの活動を余儀なくされましたが、関西在住およびタンザニアのメンバーを含め、オンラインでの会議で、これまでと変わらず日々議論を交わしています。

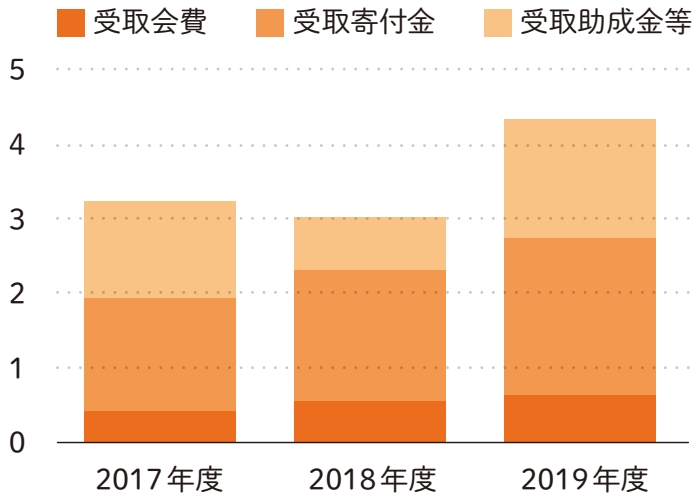
日本・タンザニアのメンバー一同、より良い事業実現に向けて、邁進してまいります。

財務報告

活動計算書	
科　　目	金　額（円）
Ⅰ 経常収益	
1. 受取会費	635,000
2. 受取寄付金	2,103,664
3. 受取助成金等	1,595,000
4. その他収益	35
経常収益計	**4,333,699**
Ⅱ 経常費用	
1. 事業費	2,499,662
2. 管理費	410,910
経常費用計	**2,910,572**
当期経常増減額	1,423,127
Ⅲ　経常外収益	
経常外収益計	752,555
Ⅳ　経常外費用	
経常外費用計	0
当期正味財産増減額	**2,175,682**

直近３事業年度の経常収益の推移

（単位：100 万）



貸借対照表	
科　　目	金　額（円）
Ⅰ 資産の部	
1. 流動資産	5,394,054
2. 固定資産	0
資産合計	**5,394,054**
Ⅱ 負債の部	
1. 流動負債	122,418
2. 固定負債	0
負債合計	**122,418**
Ⅲ 正味財産の部	
正味財産合計	5,271,636
負債及び正味財産合計	**5,394,054**

監査報告書

2020年4月25日

NPO法人　AfriMedico
代表理事　町井　恵理　様

監事　清地　正

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人であるAfriMedicoの2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2019年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

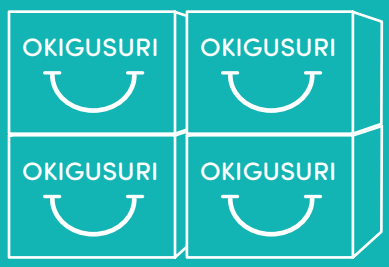
よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人であるAfriMedicoの2020年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上

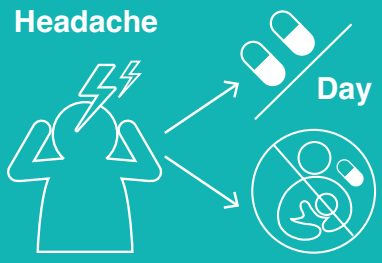
AfriMedico の活動を知って個人でご支援いただいた寄付者の方、企業様より寄付・助成金をいただき、経常収益としては、昨年度よりは増額となり、活動に必要な資金を得ることができました。なお、助成金 1,595,000 円については、次年度の事業費に使用する目的で受領したものであります。また、経常外収益として組織運営等の講演による収入を得ております。次年度も引き続き、より多くの方々に私たちの活動を伝えていきたいと思います。

寄付のお願い

AfriMedicoはアフリカに健康と笑顔を届けるためにマンスリーサポーターを募集しています。



月々500円のご寄付で
薬箱4箱を届けられます



月々1000円のご寄付で
村人の健康医療教育
1ヵ月分を届けられます

月々3000円のご寄付で
村人に
マラリア簡易検査キット
1年分を届けられます

▶ マンスリーサポーター　月々500円～

クレジットカード決済、またはPayPalでのご寄付がご利用いただけます。

▶ 今回だけの寄付　1,000円～

クレジットカード、PayPal、銀行振り込みにていつでも任意の金額でのご寄付をご利用いただけます。

銀行名：楽天銀行　第一営業支店（251）
口座番号：　7597662　口座名：アフリメディコ

［申込方法］ 下記URLから支援金額・方法を選択
http://afrimedico.org/donation/

モノで寄付をする

お宝エイド：使わなくなった貴金属、書き損じはがきや切手などを送ることでご寄付いただけます。https://npo.otakara-aid.com/pub/organizations/detail/59

キモチと：本やDVD・ゲームソフトをはじめ、発売から5年以内のスマートフォンなどのモノでご寄付頂けます。
https://www.bookoffonline.co.jp/sellfund/BSfSellFundEntry.jsp?PARTNER_CD=ZW028

様々な寄付の手段：

Yahooネット寄付 ― TポイントやYahooウォレットからご寄付いただだだけます。
つながる募金 ― ソフトバンクユーザーの方は携帯電話利用と一緒にお支払いができます。

AfriMedico は2019年11月8日付で東京都から認定を受け認定NPO法人となることができました。
支援者の皆様は確定申告を行うことで税制上の優遇措置をうけることができます。

認定NPO法人

AfriMedico

E-mail : afrimedico@afrimedico.org

Web site : http://afrimedico.org

Facebook: www.facebook.com/afrimedico

発行：2020 年 8 月